

平成28年

エネルギー講演会

エネルギー資源に乏しいわが国が今後も持続的に発展し、地球温暖化対策に貢献していくためには、化石燃料による火力発電だけでなく、原子力発電や再生可能エネルギーをどのように活用していくべきか—私たちは冷静かつ現実的に議論し、合理的に判断することが求められています。

今回の講演会では、評論家として幅広く活躍され、エネルギー政策に深い見識を持つ大宅映子氏と、「死の淵を見た男 吉田昌郎と福島第一原発の五〇〇日」の著者である門田隆将氏のお二人をお招きして、様々な角度から最新の情報を交えてお話いただきます。多くの皆さまのご参加をお待ちしています。

平成28年

7月22日 金

13:00~16:00

会場

ウェスティンホテル仙台
2階「竹」 仙台市青葉区一番町1-9-1

定員

300名程度[先着順]

参加無料

開会のご挨拶

13:00~13:10

東北エネルギー懇談会 会長 井上 茂

講演1

13:10~14:30

『本義』を見失わなかった男たち
～極限に立つ日本人の底力～

ジャーナリスト・ノンフィクション作家

門田 隆将 先生

休憩(14:30~14:40)

講演2

14:40~16:00

豊かさや安全とエネルギー

評論家・公益財団法人大宅壮一文庫理事長

大宅 映子 先生

閉会

16:00

講演1

ジャーナリスト・ノンフィクション作家 かどた りゅうしょう 門田 隆将 先生



1958年、高知県安芸市生まれ。週刊新潮編集部の記者、デスク、次長、副部長を経て、2008年に独立。デスク時代の18年間に、800本近い特集記事を取材・執筆した。

現在、ノンフィクション作家として、政治、司法、事件、歴史、スポーツなど幅広い分野で活躍している。「この命、義に捧ぐ 台湾を救った陸軍中将根本博の奇跡」で第19回山本七平賞受賞。「死の淵を見た男 吉田昌郎

と福島第一原発の五〇〇日」「記者たちは海に向かった 津波と放射能と福島民友新聞」など、「毅然と生きた日本人」をテーマに幅広いジャンルでノンフィクション作品を生み出している。最新刊は、危機に直面した中で「本義」に従ったリーダーたちの姿を描いた「リーダーの本義(日経BP社)」。

講演2

評論家・公益財団法人大宅壮一文庫理事長 おおや えいこ 大宅 映子 先生



国際基督教大学卒業後、(株)日本インフォメーション・システムズ(NIS)を設立、代表取締役社長をつとめる(現在は大宅映子事務所に吸収合併)。NISでの企業や団体の文化イベントの企画プロデュースのかたわら、78年から始めたマスコミ活動では、国際問題・国内政治経済から食文化・子育てまで守備範囲広く活躍し、大所高所からの視野と同時に個人の立場で発言する切れ味のよいコメントが好評である。これまで多くの審議会委員をつとめ、日本の構造改革に関してきている。2014年1月、日本年金機構の非常勤理事に就任。(株)西武ホールディングス社外取締役。

主催:  東北エネルギー懇談会
TOHOKU ENERGY CONFERENCE

後援: 一般社団法人原子力国民会議 / 日本エネルギー会議 / 一般財団法人日本原子力文化財団